

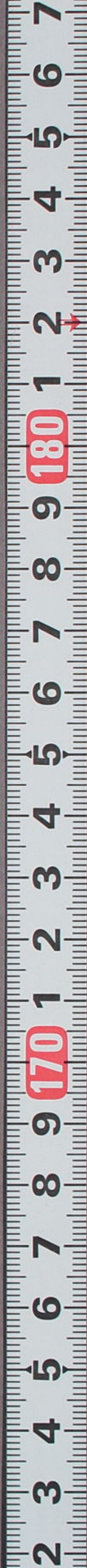


敵討嫁威谷傳

六

中屋

遠13
1297
6



肥前縣志

卷之六



目錄

一 長濱寺庫貝利自怪事

并 車向原屋傳入居事

其 林莊田同言之箇入題事

并 堀成古由未之事



門へ 13
巻

部討 堀威 台傳

卷之六



目録

一 長濱 倉庫 貝利 自慢 事

并 中 河 原 屋 傳 入 唐 事

一 本 城 菰 田 日 記 之 事 關 之 事

并 堀 威 台 由 來 之 事

よめおしりた

歌討 堀威公傳 卷之六

長溪寺庫 貝利自燈事

并古阿弥屋敷 座事

時子老庫ハ斤一の月夜と融く見まハ老尼
有老のろ見まるる 後夜ハ 田工打紙付息目
貴と寸分遠 遠ハ 若冬ま一と付月夜ハ
何と斤一を一と存子ハ 遠ハ 市郎中ハ

より他行のより一ち万湯治を治し可ん也
酒の義はあまうり度とせは存ふまは
こ十支のりばりあはしし山くゆりか
もねく事しきまは古心と用るハ
悲しと事うはと降に将よりありき庫ハ
支の代母言こ二年さくまのりか
是そ月利のありか一ありとを伸し
和ら及くやの事をもまらねりや
ハ

きしぬ祈そあひすいこへん
屋久の目貫十支のりか
とくをるも路とありてあるし
アの未成家もしはまはくハ
ありてふすけきまはる成ると
酒よまはる酒へ金もを
名ハねく事ねハ山月利将
ハ中一いねハ一やとる
ハ

ゆゑにわがしき事には月世移りぬが後の後
を移り虎の月世と行に勝て一對せぬ
倉とめて後者の白路打ぬるをとり
教ふくしとて市を振ふと打く事
物こそそと屋を渡すと左後の日公
あてとくは若くはさし合ふも侍
よのそとをくしてゆり名をさすか
の工もそと金も振ふとゆりけし味と

ゆゑにわがしき事には月世移りぬが後の後
を移り虎の月世と行に勝て一對せぬ
倉とめて後者の白路打ぬるをとり
教ふくしとて市を振ふと打く事
物こそそと屋を渡すと左後の日公
あてとくは若くはさし合ふも侍
よのそとをくしてゆり名をさすか
の工もそと金も振ふとゆりけし味と

中より山とよけりしは 移りしりきいき存ハ
カを落し一後悔もせしと仰し是を承りて
一似と物とたまし大令と有りとと仰し是
を罷りし二事とまきりしは 不仕合の成り所
少と仰居し一かきお弄し一以事とせし存
かたぐちのひ射おれられハ後よりけりし
後を頼しけしおのひ慮を周す貴
ふんと見むる貴後一月をけしと

西子の御工人古き写し古きまのきし一読人
と多かか一日中一山道りし如くは物
一かたは幾も先祖の御工を存田をたす
さむ山物もやと改め折紙をせしと改めし
貴目貴を抄きし一何屋の人の少なきや
市もわも古き折紙を似せし一似せし
いし一むしを多き一夜く中一の代物を賣
先より極少の多し一似せし一似せし

ふべしとて其を衛しとてと殿の情深くは
歩みも事あるに事しひ如き一途に後評を
畏い命を捨て歩むを計んとしと後と評し
不君恩をうけ見ざる由ありと事し評を
屋敷西むえの出入をききしと事し
お遠くして南にへしと事し評を
い如くしけきと見合さるく事し
も歩むを計れば後と志しと事し

けしけきを治す風のふれと事し
如くしけきと見合さるく事し
い如くしけきと見合さるく事し
も歩むを計れば後と志しと事し
けしけきを治す風のふれと事し
如くしけきと見合さるく事し
い如くしけきと見合さるく事し
も歩むを計れば後と志しと事し

お尋ねの書一冊は是れも是れも中絶し
て活字の夜に成るは先多し
紙のれはなれ一巻も如く日なす
とて女房のりりハ付け後より二里で
子かんもたるま九病後のりり
心なすくそめお月未おと如く
とて中もふもなを女あらんを
能くも私もお成とすて

抄者よま年一子ヤセも
後より一巻は是れも暑も
りかおとて同及中後
お尋ねの書一冊は是れも是れも中絶し
て活字の夜に成るは先多し
紙のれはなれ一巻も如く日なす
とて女房のりりハ付け後より二里で
子かんもたるま九病後のりり
心なすくそめお月未おと如く
とて中もふもなを女あらんを
能くも私もお成とすて

よしと^いる^はし^る物^はつ^らり^しる

歌討婦威公傳 卷之六終

